

Yell!



70 回生学年主任 丹生 憲一

共通テスト・課題考査が終わりました。

皆さんにとって、3 年生 0 学期最初の試験。出来はどうか？共通テストの平均点は、英語 56.8（1 組は 71 点）、数学 38.8 点（1 組は 61 点、2 組は 58 点）。課題考査の平均点、英語は 66.2、数学は 66.3。本当によくできた人と、そうでない人の差がまた開いてきたようです。ちなみに Vocabulary Championship は平均 78.5。100 点が 8 人！99 点が 18 人！という好成绩で、用意した景品が足りるかどうかわかりませんでした…。今週の木曜日、講演会の後に表彰予定です。1 年後には多くの人がセンター試験を受験します。前号の最後に書いたように、今から数値的な目標を定めて頑張ってください。

14 日（土）、そのセンター試験の出陣にあたり、地域住民の森下様が甲冑姿に身を固め、出陣のほら貝を吹いて受験生を激励してくださいました。そのほら貝の音が高らかに鳴り響く中、雪が一層強まり、まるで赤穂浪士の討ち入りの一シーンのようでした。進路が決まっている同級生が応援にかけつけ、一人一人に激励のメッセージ入りの Kitkat を配り、寄せ書きされた横断幕を手に見送る姿は感動的で、来年のこの日に想いを馳せました。まずは 69 回生の先輩が力を出し尽くし、これから二次試験を経て希望する進路を実現されることを祈りたいと思います。心からエール(yell)を送りましょう！

…ここまでで発行するつもりでしたが、豪雪により休校！翌日も悪路が予想されたので、月曜のうちに休校を決めました。皆さんのお家の周りは大丈夫でしたか？（保護者の皆様 職員もあの雪で学校にたどりつけず、HP・電話の対応が遅れ、申し訳ありませんでした。状況をご理解いただきお許しください。実は、私も雪に閉じ込められて、車も動かせず、16 日は結局学校に来ることができませんでした。）



<Vocabulary Championship> 成績優秀者（敬称略）Well Done!

臼井 千尋	100	芦田 茉莉那	99	見田 知一	99
黒田 由乃	100	足立 有紀乃	99	板倉 徳香	99
澤野 日佳理	100	高松 壮太	99	大槻 茉侑	99
林 博斗	100	廣岡 里菜	99	本山 隆史	99
藤井 拓実	100	増田 彩乃	99	赤田 未来	99
秋田 昌樹	100	待場 啓汰	99	梶村 優斗	99
細見 有李	100	土田 泰暉	99	林 泰玄	99
朝倉 さち	100	中村 大輝	99	林 岬希	99
		水口 友希	99	足立 真菜	99

<69 回生応援コーナー> センター試験出陣！



雪の朝、集まった応援団



一人一人にメッセージ付 Kitkat



鎧兜+法螺貝の森下さん

さて、阪神淡路大震災から 22 年になります。あの日の記憶を風化させないために、これから数回にわたって私個人の震災の記憶を掲載させていただきます。

<生き残って>

阪神淡路大震災の追悼番組を見ると涙が出ます。神戸新聞では、必ずこの時期になると、あの日のこと、あの後のこと…色々な人の人生を紹介する特集が組まれますが、やはり涙が出ます。あの震災で被災した人みんなが、自分の家族のように思われます。生死を分けたのは、わずかな時間の差、数センチの違いでした。私は「生き残った」一人で、この時期、寒さに伴って命のありがたさが身にしみるのです。生かされたことの意味を考える一日でもあります。今日も 5 時 46 分には黙祷して家を出ました。

あの年の 1 月のカレンダーは、忘れることができません。14 日（土）と 15 日（日）がセンター試験。（偶然、今年と同じ）16 日（月）（当時は 15 日が成人の日）は振替休日。高校三年生の担任をしていた私は、自己採点のために出勤することになっていました。ところが、朝起きると原因不明の高熱と下痢・吐き気が…。這うように学校へ行ったものの、まともに立っていることもできず、「いても役にたたないから家で休め」という先輩の先生方のやさしい言葉に甘えて、また這うように家に帰ったのでした。妻の働いていたスーパーに立ち寄り「帰って寝るから、起こさないで…」とだけ言い残し、文字通り死んだように眠りました。

翌朝、目覚ましの音で目覚めたのは 5 時 45 分。6 時にセットしたはずでしたが、私がなかなか起きないことを見越して、妻が時計を 15 分進めていました。この 1 分が、私の命を救ってくれたのです。

1 分後、迫り来るダンプカーのような轟音とともに、「ゴジラに持ち上げられて叩きつけられたような衝撃」を感じました。あの瞬間、目が覚めていなければ、倒れてきたスライド書棚に頭をたたきつぶされて死んでいたかもしれません。隣で寝ていた妻はあと 10 センチ背が高ければ、コンピューターのディスプレイ（あのころのは重かった）が顔面に落ちてきたところでした…。

布団の中で揺れが収まるのを待っていると、ガス漏れ警報機が「ピューンピューン」と鳴り始めました。「やばい！火事になる」そう思って台所に飛びこんでいくと、食器棚は倒れ、皿は散乱していて、ガス管がどこかわかりません…風呂場があったはずの場所は、もぎ取られてどこかなくなっていました。血の気の引く思いとはこのことです。必死でガス管を探しましたが、ガスが漏れている臭いもなく…。やがて、その音は隣の部屋から聞こえることに気付きました。…それはビンゴの景品にもらった、ダイナマイト型のアラーム時計…。「ピューン」という音は、爆弾を投下する音に設定されていたのでした！人騒がせな…

続いて、外に出ようと、階段まで行きましたが、壁にふさがれて戸口が見えません。「窓から屋根に出よう」…そう思って窓の外を見た私たちはあぜんとしました。普段見えているはずの、隣家の青い屋根（写真↓）は見えず、一階の窓が見えていたからです。築 25 年の文化住宅の一階部分は、マッチ箱を平行四辺形につぶしたように潰れて、私たちの住む 2 階がそのまま地面まで落ちていたのでした。玄関がふさがれた私たちは、靴をはくこともできず、靴下を重ね履きして外に出ました。無残につぶれた我が家を見て、私が思ったことは「…学校になんて報告しよう？…家がつぶれたなんて恥ずかしくて言えへん…」

ラジオが報じた第一報、「死傷者は一人」。薄暗い明け方の寒空の下で、町全体が壊滅状態にあることを、私はまだ知る由もなかったのです。

生かされたことの意味…

その一つは、あの恐ろしい震災で亡くなった人たちを忘れないためにも、あの日々の出来事を伝えていくことかなと思っています。

